

資治通鑑 第 163 卷

【梁紀十九】 上章敦牂，一年。

■梁、●西魏、**東魏**東魏、**北齊**北齊、統国訳漢文大成 經子史部 第 9 卷 242p

太宗簡文皇帝上大寶元年（庚午，550年）

【蕭氏の足並み揃わず、侯景は各個撃破】

■春，正月，辛亥(47-47+1=1日)朔，大赦し，改元す。（簡文帝、諱は綱、字は世讚、小字は六通、武帝三子）

■**陳霸先は湘東王繹と連携、南康侵攻** 陳霸先は始興（廣東省嶺南道始興縣の西北、現・韶關市始興縣）を發し，大庾嶺（江西省贛南道大庾縣、現・贛州市大余縣）に至り，**蔡路養**は二萬人を將いて南野（縣の名、江西省贛南道南康縣西南、現・贛州市南康區）に軍し以て之を拒む。**路養**の妻の侄の蘭陵の**蕭摩訶**は，年十三なり，單騎にして出で戦い，敢えて當たる者無し。**杜僧明**の馬は傷つけられ，**陳霸先**は之を救い，授けるに乗る所の馬を以てす。**僧明**は馬に上りて復た戦い，衆軍は困り而して之に乗じる。**路養**は大敗し，身を脱して走る。**霸先**は南康（江西省贛南道南康縣、現・贛州市南康區）に進軍し，湘東王の**繹**は製を承け**霸先**に明威將軍、交州刺史を授ける。

東魏 **高洋は丞相に進む、実権掌握** 戊辰(4+60-47+1=18日)，東魏は太原公の**高洋**の位を丞相、都督中外諸軍、錄尚書事、大行台、齊郡王に進む。(9-243p)

■**邵陵王の綸は江夏に百官を置く** 庚午(6+60-47+1=20日)，邵陵王の**綸**は江夏に至り，郢州刺史の南平王（統の南康王は×）の**恪**は郊迎し，州を以て之に譲り，**綸**は受けず。乃ち**綸**を推して假黃鉞，都督中外諸軍事と為し，製を承けて百官を置く。

●■**魏の楊忠は安陸など漢東之地を占領** 魏の**楊忠**は安陸を圍み，**柳仲禮**は馳せて歸りて之を救う（去年柳仲禮は兵を將いて襄陽に赴く）。諸將は**仲禮**が至れば則ち安陸は下し難きを恐れ，急に之を攻めるを請う。**忠**は曰く、

「攻守の勢いは殊なり，未だ猝に抜く可からず。若し日を引き師を勞し，表裡に敵を受ければ，計に非ざる也。南人は多く水軍を習い，野戰をなら（統は閑）わず，**仲禮**の師は近路に在り，吾は其の不意に出で，奇兵を以て之を襲えば，彼は怠り我は奮い，一舉に克つ可し。**仲禮**に克てば，則ち安陸は攻めずして自ら抜け，諸城は檄を傳えて定まる可き也。」

乃ち騎二千を選び，枚を銜んで夜進み，**仲禮**を崇（統は水篇に崇、水の衝く所）頭に敗り，**仲禮**及び其の弟の**子禮**を獲り，盡く其の衆を俘とす。**馬岫**は安陸を以て，別將の**王叔孫**は竟陵を以て，皆な**忠**に降る。是に於いて漢東之地は盡く魏に入る。

■**廣陵では侯景側の董紹先殺害** 廣陵人の**來疑**は前廣陵太守の**祖皓**を説いて曰く、

「**董紹先**は輕々しく而して謀無し，人情は附かず。襲い而して之を殺すは，此れ壯士之任なる耳。今義勇を糾帥し，府君を奉戴せんと欲す。若し其の克捷すれば，**桓**、**文**之勳を立つ可し。必ず天は未だ禍いを悔いざる（事ならざる）とも，猶ほ梁室の忠臣と為すに足らん。」

皓は曰く、

「此れ僕が願う所也。」

乃ち相い與に勇士を糾合し，百餘人を得る。癸酉(9+60-47+1=23日)，廣陵を襲い，南兗州刺史の**董紹先**を斬る。城に據り，檄を遠近に馳せ，前太子舍人の**蕭勉**を推して刺史と為し，仍って東魏に結びて援と為す。**皓**は，**日恆**（147 卷武帝天監 13 年にあり）之子なり。**勉**，**勃**之兄也。乙亥(11+60-47+1=25日)，**景**は

郭元建を遣わして衆を帥いて奄至し、皓は城を嬰して固守す。

●■ 〔蕭繹は魏の楊忠と同盟〕 二月、魏の楊忠は勝ちに乗りて石城（湖北省襄陽道鍾祥県、現・荊門市鍾祥市）に至り、進みて江陵に逼らんと欲し、湘東王の繹は舍人の庾恪を遣わして忠を説いて曰く、

「察は來たりて叔を伐ち（前卷前年にあり）而るに魏は之を助ける、何を以てか天下をして心を歸せ使めんや！」

忠は遂に漣北（漣水の北）に停まる。繹は舍人の王孝祀等を遣わして子の方略を送りて質と為し以て和を求め、魏人は之を許す。繹は忠と盟^{ちか}いて曰く、

「魏は石城を以て封（境）と為し、梁は安陸（湖北省江漢道安陸県の北、現・孝感市安陸市）を以て界と為し、請う附庸に同じくし、並びに質子を送り、有無を貿遷（貿易）し、永く鄰睦を敦くせん。」

忠は乃ち還る。

● 〔西魏は宕昌を支援〕 宕昌王の梁彌定は其の宗人の獠甘の襲う所と為り、彌定は魏に奔り、獠甘は自立す。羌酋の傍乞鐵忽は渠株川に據り、渭州民の鄭五丑と與に諸羌を合わせ以て魏に叛す。丞相の泰は大將軍の宇文貴、涼州刺史の史寧をして之を討たしめ、鐵忽、五丑を擒りて斬る。寧は別に獠甘を撃ち、之を破り、獠甘は百騎を將いて生羌（遠く塞外にありて魏に従わない）の鞏廉玉に奔る。寧は復た彌定を宕昌に納れる、（9-244p）岷州を渠株川に置き、進みて鞏廉玉を撃ち、獠甘を斬り、廉玉を虜として長安に送る。

■ 侯景は任約、於慶等を遣わして衆二萬を帥いて諸藩（梁の皇室の諸藩）を攻めしむ。

■ 〔骨肉の争いの損〕 邵陵王の綸は河東王の譽を救わんと欲し、而るに兵糧は不足し、乃ち書を湘東王の繹に致して曰く、

「天の時地の利は、人の和に及ばず、況んや手足肱支においてを乎、豈に相い害する可けんや！今社稷は危恥^{きずおおい}し、創^{いたみ}巨に痛深し（親の喪。禮記の三年間に曰く、創巨なる者は其の疾久し、痛み甚だしき者はその癒えること遅し。三年とは情に称へて文を立つね至痛の極と為す所以なり。斬哀・苴杖・倚廬に居り、粥を食ひ、苫に寝ね、塊を枕とするは、至痛の飾と為す所以なりと）、唯だ應に心を^さ割き^{たん}膽^なを^な嘗め（越王勾踐の薪に臥し膽を嘗め以て呉に報いんと求む）、泣血して戈を枕にすべし（晉の劉琨は戈を枕にし且を待ち逆虜を梟せんことを志す）、其の餘の小忿は、或は宜しく容^あすべし。若し外難未だ除かざるに、家の禍は仍ほ構えれば、今を料^{はか}り古^{いにしえ}を訪ねるに、未だ亡びざるは或らず。夫れ征戰之理は、唯だ克勝を求めるのみ。骨肉之戦いに至りては、愈々勝てば愈々酷なり、捷つとも則ち功に非ず、敗れば則ち喪有り、兵を勞し義を損し、虧失多し矣。侯景之軍の未だ江外（荊州は江陵に治し江北にあり）を窺わざる所以の者は、良く藩屏は盤固にして、宗鎮は強密なるが為なり。弟が若し洞庭（湘州の地にあり）を陷し、兵刃^{おさ}を戢めざれば、雍州は疑迫し、何を以てか自ら安んぜん、必ず魏の軍を引き進め以て形援を求めん。弟が若し安んぜざれば、家國は去らん矣。必ず^{こいねが}希^{こいねが}わくは湘州之圍みを解き、社稷之計を存せんことを。」

繹は復書し、譽の過惡の赦されざるを陳べ、且つ曰く、

「察は楊忠を引き來たりて相い侵逼し、頗る談笑に遵い、用^もつて秦の軍を卻け、曲直在る有り、復た自ら陳せず。臨湘（漢以来長沙郡の治所の県。湖南省湘江道長沙県の南、現・長沙市長沙県）は旦^{まさ}に平らがんとす、暮に便ち路に即^つかん（路に就く。上文を承ければ、襄陽を攻めんと欲するが如きもこれを下文に考えれば、蓋し侯景を討つを謂う）。」

綸は書を得、之を案に投じ、慷慨流涕して曰く、

「天下之事は、一に斯に至る！湘州が若し敗れば、吾亡びること日無し矣！」（綸は繹の兵が東下すれば、必ず將に己を囚らんとするを知る）

■ 〔侯景は廣陵大虐殺〕 侯景は侯子鑒を遣わして舟師八千を帥い、自ら徒兵一萬を帥いて、廣陵を攻め、

三日にして、之に克ち、祖皓を執り、縛し而して之を射、箭は體に遍くし、然る後に車裂きし以て徇う。城中は少長と無く皆な之を地に埋め、馬を馳せ射而して之を殺す。子鑒を以て南兖州刺史と為し、廣陵に鎮せしむ。景は建康に還る。

■丙戌（22-17+1=6日）、安陸王の大春を以て東揚州刺史と為す。吳州（侯景が吳州を置くこと前卷前年にあり）を省く。乙巳（41-17+1=25日）、尚書僕射の王克を以て左僕射と為す。

■東魏 庚寅（26-17+1=10日）、東魏は尚書令の高隆之を以て太保と為し。宣城内史の楊白華を進めて安吳（安徽省蕪湖道涇県、現・宣城市涇県）に據らしむ。侯景は於子悦等を遣わして衆を帥いて之を攻めしめ、克たず。（9-245p）

■東魏 東魏の行台の辛術は兵を將いて入寇し、陽平を圍み、克たず。

■「侯景は溧陽公主を愛す」侯景は上の女の溧陽公主を納れ、甚だ之を愛す。三月、甲申（20+60-46+1=35日?）、景は上に請い樂游苑（玄武湖の南）に禊宴（禊儀によりて宴会）し、帳飲す。上は宮に還り、景は公主と共に御床に據り、南面し並び坐し、群臣文武は列坐して宴に侍す。

■東魏 庚申（56-46+1=11日）、東魏は丞相の洋の爵を進めて齊王と為す。

■臨川内史の始興王の毅等は莊鐵を撃ち、鄱陽王の范は其の將の巴西侯の瑱を遣わして之を救い、毅等は敗死す。

■「蕭嗣は任約を破る」鄱陽の世子の嗣は任約と三章に於いて戦い、約は敗走す。嗣は因りて徙りて三章に鎮し、之を安樂柵（去年鄱陽王范は西上し嗣に安樂柵を守らしめ、今移して同名とす）と謂う。

■夏、四月、庚辰（16-16+1=1日）朔、湘東王の繹は上甲侯の韶（前卷前年に江陵に走る）を以て長沙王と為す。

■「侯景を帝は抱く」丙午（42-16+1=27日）、侯景は上に西州に幸するを請い、上は素輦に御し、侍衛は四百餘人、景は浴鐵（鉄の甲が堅く滑らかにして水を浴びた様に見える）數千、左右を翼衛す。上は絲竹を聞き、凄然として泣下り、景に命じて起ち舞わしめ、景も亦た上に起ち舞うを請う。酒闌にして坐は散じ、上は景を床に抱きて曰く、

「我は丞相を念う！」

景は曰く、

「陛下が如し臣を念わざれば、臣は何ぞ此に至るを得ん！」

夜に逮びて乃ち罷む。

■「江南は飢饉連年、白骨丘となる」時に江南は連年旱蝗し、江、揚は尤も甚だしく、百姓は流亡し、相い與に山谷、江湖に入り、草根、木葉、菱芡（止水の中の植物）を採り而して之を食し、所在は皆な盡き、死者は野を蔽う。富室も食無く、皆な鳥面鵠形にして、羅綺を衣、金玉（続は珠玉）を懷にし、床帷に俯伏し、命を待ち終りに聽す。千里は絶煙し、人跡は見るに罕にして、白骨は聚を成し、丘隴の如し焉。

■「侯景は残酷で百姓は附かず」景の性は残酷にして、石頭に於いて大碓を立て、法を犯す者在れば之を搗殺す。常に諸將を戒めて曰く、

「柵を破り城を平げれば、當に之を淨殺（続は盡殺）し、天下をして吾が威名を知らしめん。」

故に諸將は戦勝する毎に、専ら焚掠を以て事を為し、人を斬刈すること草芥の如し、以て戲笑に資す。是に由りて百姓は死すと雖も、終に之に附かず。又た人の偶語を禁じ、犯す者は刑は外族（男子は舅の家、婦人は父母の家）に及ぶ。其の將帥為る者は、悉く行台と稱し、來たり降附する者は、悉く開府と稱し、其の親寄隆重なる者は左右廂公と曰い、勇力の人を兼ねる者は庫直都督と曰う。

●魏は皇子の儒を封じて燕王と為し、公を吳王と為す。

■侯景は宋子仙を召して京口に還らしむ。(去年東揚州に勝つ)

■〔邵陵王綸は陵暴で人気無し〕邵陵王の綸は郢州(武漢に設置)に在り、聽事を以て正陽殿と為し、内外の齋閣は、悉く題署を加える。其の部下は軍府を陵暴し、郢州の將佐は之を怨まざるは莫し。咨議參軍の江仲舉は、南平王の恪之謀主也、恪に説きて綸を圖らしめ、恪は驚いて曰く、

「若し我が邵陵を殺し、一鎮を寧靜すれば、(9-246p) 荊(湘東王繹)、益(武陵王紀)の兄弟は必ず皆な内に喜び(綸の次に可能性が出る)、海内若し平らげば、則ち大義を以て我を責めん矣。且つ巨逆(侯景)は未だ梟せず、骨肉相い殘^{そこな}えば、自ら亡びる之道也。卿は且く之を息むべし。」

仲舉は従わず、諸將を部分し、日を刻して將に發せんとす。謀は洩れ、綸は之を壓殺す。恪は狼狽して往きて謝し、綸は曰く、

「群小の作す所、兄に由るに非ざる也。凶黨は已に斃れる、兄は深く憂うる勿かれ。」

■〔王僧辯は長沙の蕭譽を斬る〕王僧辯は急に長沙を攻め、辛巳(17-16+1=2日)、之に克つ。河東王の譽を執り、之を斬り、首を江陵に傳え、湘東王の繹は其の首を反し(身と俱に)而して之を葬る。初め、世子の方等之死するや(前卷前年)、臨蒸(湖南省衡陽道衡陽県、現・衡陽市衡山県)の周鐵虎の功は最も多く、譽は委遇すること甚だ重し。僧辯は鐵虎を得、命じて之を烹しめ、呼びて曰く、

「侯景の未だ滅びざるに、奈何して壯士を殺すや！」

僧辯は其の言を奇とし而して之を釋し、其の麾下に還す。繹は僧辯を以て左衛將軍と為し、侍中、鎮西長史を加える。

■〔蕭繹は長沙落ちて武帝の喪を發し、侯景討伐決意〕繹は去歲より高祖之喪を聞けども、長沙の未だ下らずを以て、故に之を匿す。壬寅(38-16+1=13日)、始めて喪を發し、檀を刻して高祖像を為り、百福殿に置き、之に事えること甚だ謹み、動靜は必ず焉に咨る。繹は以為らく天子が賊臣に制せらる、肯えて大寶之號に従わず、猶ほ太清四年と稱す。丙午(42-16+1=27日)、繹は下令して大舉して侯景を討ち、檄を遠近に移す。

■〔鄱陽王范の憤死〕鄱陽王の范は湓城に至り、晉熙(晉の安帝は盧江郡を分けて晉熙郡を立てる。安徽省安慶道懷寧県、現・安慶市懷寧県)を以て晉州と為し、其の世子の嗣を遣わして刺史と為し、江州の郡縣は多く輒ち(守令を)改易す。尋陽王の大心は、政令の行う所、一郡(尋陽一部のみ)を出ず。大心は兵を遣わして莊鐵を撃ち、嗣は鐵と素より善く、兵を發して之を救わんと請い、范は侯瑱を遣わして精甲五千を帥いて鐵を助けしむ。是に由りて二鎮は互いに相い猜忌し、復た討賊之志無し。大心は徐嗣徽をして衆二千を帥いて、壘を稽亭に築き以て范に備え使む。市糴は通じず。范の數萬之衆は、食を得る所無く、多く餓死す。范は憤恚し、疽は背に發し、五月、乙卯(51-45+1=7日)、卒す。其の衆は秘して喪を發せず、范の弟の安南侯の恬を奉じて主と為し、衆數千人有り。

■丙辰(52-45+1=8日)、侯景は元思虔を以て東道大行台と為し、錢塘に鎮せしむ。丁巳(53-45+1=9日)、侯子鑒を以て南兗州刺史と為す。

【東魏滅び高洋は北齊を立てる】

東魏 〔東魏の高洋は受禪に迷う〕東魏の齊王の洋之開府と為る也、勃海の高徳政は管記(記室參軍)と為り、是に由り親暱にして、言は盡くさざる無し。金紫光祿大夫の丹楊の徐之才、北平(漢晉以來中山に北平県あり、後魏の孝昌中に分けて北平郡を置き、定州に属す)太守の廣宗(漢に鉅鹿県に属す県、後に安平國に属す。後魏太和21年に廣宗郡を

分置、司州に属す)の**宋景業**は、皆な圖讖を善くし、以為らく太歳は午に在り、當に革命有り、**德政**に因りて以て**洋**に白し、之に禪りを受けんことを勧める。**洋**は以て**婁太妃**に告げ、**太妃**は曰く、

「汝の父(高歡)は龍の如し、兄(高澄)は虎の如し、猶ほ天位に妄りに據る可からずを以て、(9-247p)終身北面す。汝獨り何人や、**舜**、**禹**之事を行わんと欲する乎！」

洋は以て**之才**に告げ、**之才**は曰く、

「正に父兄に及ばざるが為に、故に宜しく早く尊位に升るべき耳。」

洋は像を鑄て之をトし而して成る、乃ち開府儀同三司の**段韶**をして肆州刺史の**斛律金**に問わ使め、**金**は來たりて**洋**を見、固く、

「可からず」

と言う。**宋景業**が首めて符命を陳ずるを以て、之を殺さんと請う。**洋**は諸貴と**太妃**の前で議し、**太妃**は曰く、

「吾が兒は儒直なり、必ず此の心無し、**高德政**は禍いを樂しみて、之を教える耳。」

洋は人心の壹ならずを以て、**高德政**をして鄴に如き公卿之意を察せ使む。未だ還らず。**洋**は兵を擁し而して東し、平都城(山西省冀寧道榆社縣の西、現・晋中市榆社縣社城鎮)に至り、諸勳貴を召して之を議し、敢えて對えるもの莫し。長史の**杜弼**は曰く、

「關西(宇文泰の西魏)は、國之勁敵なり、若し魏の禪を受ければ、恐らくは彼は**天子**(西魏主)を挟み、自ら義兵と稱し而して東に向わん、王は何を以てか之を待たん！」

徐之才は曰く、

「今王と天下を爭う者は、彼も亦た王の為す所を為さんと欲するなり。縱え其の屈強なるも、我に隨いて帝と稱するに過ぎざる耳。」

弼は以て應える無し。**高德政**は鄴に至り、公卿に諷し、應える者有る莫し。**司馬子如**は**洋**を遼陽(山西省冀寧道遼縣、現・晋中市左權縣)に逆え、固く、

「未だ可からず」

と言う。**洋**は還らんと欲し、倉丞(北齊の制度、太倉及び水次の諸倉に皆令丞有り。北齊紀には尚倉丞**李集**に作る)の**李集**は曰く、

「王は來たりて何事の為や、而して今還らんと欲するや？」

洋は偽りて東門に於いて之を殺さしめ、而して別に絹十四匹を賜ら令め、遂に晉陽に還り、是より居常悦ばず。**徐之才**、**宋景業**等は日に陰陽雜占を陳べて、雲わく、

「宜しく早く命を受けるべし。」

高德政も亦た敦く勧めて已まず。**洋**は術士の**李密**をして之をトせ使め、《大橫》(13 卷漢の高后八年にあり)に遇い、曰く、

「漢文之卦也。」

又た**宋景業**をして之を筮せ使め、《乾》之《鼎》に遇い(乾の初爻・九五の二爻動き變じて鼎に之く)、曰く、

「《乾》は、君也。《鼎》は、五月卦也。宜しく仲夏を以て禪を受けるべし。」

或は曰く、

「五月は官に入る可からず(陰陽家の説に、官に上るに正月五月九月を忌む)、之を犯せば、其の位に終わらん。」

景業は曰く、

「王が**天子**と為れば、復た下る期無し、豈に其の位に終わらざるを得ん乎！」

洋は大いに悦び、乃ち晉陽を發す。

東魏 **「魏收は禪讓の文を起草」** 高德政は鄴に在る諸事を録し、洋に條進し、洋は左右の**陳山提**をして驛を馳せて事條並びに密書を繼いで**楊愔**に與え令む。是の月、**山提**は鄴に至り、**楊愔**は即ち太常卿の**邢劭**等を召し儀注を撰すを議し、秘書監の**魏收**は九錫、禪讓、勸進の諸文を草す。魏の宗室の諸王を引いて北宮に入れ、東齋に留める。

東魏 **「高洋は禪讓のため鄴に入る」** 甲寅 (50-45+1=6 日)、東魏は洋の位を相國に進め、百揆を總べしめ、九錫を備える。洋は行きて前亭に至り、乗る所の馬は忽ち倒れ、意は甚だ之を惡む。平都城に至り、復た肯えて進まず。**高德政**、**徐之才**は苦^{ねんご}ろに請いて曰く、

「**山提**は先ず去り、其の漏洩せんことを恐れる。」

即ち**司馬子如**、**杜弼**に命じて驛を馳せて續きて入り、物情を觀察せしむ。(9-248p) **子如**等は鄴に至り、衆人は事勢の已に決するを以て、敢えて異言無し。洋は鄴に至り、夫 (民夫) を召し築具を繼ぎ城南に集まらしむ。**高隆之**は請いて曰く、

「此を用いて何をか為すや？」

洋は色を作して曰く、

「我は自ら事有り、君は何ぞ問いを為すや！族滅を欲する邪！」

隆之は謝し而して退く。是に於いて園丘 (続は圓丘) を作り、法物を備える。

東魏 **「東魏の孝靜帝は別邸に移る」** 丙辰 (52-45+1=8 日)、司空の**潘樂**、侍中の**張亮**、黃門郎の**趙彥深**等 は入りて事を啟せんと求め、東魏の**孝靜帝**は昭陽殿に在りて之を見る。**亮**は曰く、

「五行 (木火土金水) は遞^{たが}いに運り、始め有れば終わり有り。**齊王**の聖徳は欽明にして、萬方は歸仰し、願わくは陛下は遠く堯、舜に法^{のつと}らんことを。」

帝は容を斂^{おさ}めて曰く、

「此の事は推挹 (推し讓る) すること已に久しく、謹みて當に遜避すべし。」

又た曰く、

「若し爾らば、須く制書を作るべし。」

中書郎の**崔劼**、**裴讓之**は曰く、

「制は已に作り訖^{おひ}る。」

侍中の**楊愔**をして之を進ま使む。**東魏主**は既に署し、曰く、

「朕は何所にか居らん？」

愔は對えて曰く、

「北城に別に館宇有り。」

乃ち御坐を下り、歩みて東廊に就き、**范蔚宗** (范華、後漢書作者) の《後漢書・贊 (獻帝を贊するの書)》を詠じて曰く、

「獻 (獻帝) 生 (坐×) まれて辰 (時) ならず (獻帝は生まれて既に時を得ず)、身は播 (移) り國は屯 (屯難) なり、我が四百 (漢の四百年) を終わり、永く虞賓 (虞は堯の子の丹朱を以て賓となす) と作る。」

所司 (禪代よ司る者) は (別邸に) 發するを請い、**帝**は曰く、

「古人は遺簪弊履^{おも}を念い、朕は六宮と別れんと欲す、可なる乎？」

高隆之は曰く、

「今日天下は猶ほ陛下之天下なり、況んや六宮に在るをや！」

帝は歩いて入り、妃嬪已下と別れ、宮を擧げて皆な哭す。趙國の李嬪は陳思王（曹植は魏の武帝の子で陳王に封じられ思という）の詩を誦して云わく、

「王は其れ玉體を愛せよ、俱に黃發の期を享けん。」

直長（殿中の諸局に各々直長有り、蓋し尚乘直長なり、高氏の私人なり）の趙道德は故の犢車（子牛に引かせる車、統はただ車）一乗を以て東閣（東閣門）に候し、帝は車に登り、道德は超上して之を抱き、帝は之を叱して曰く、

「朕は自ら天を畏れ人に順い、何物の奴ぞ、敢えて人に逼ること此くの如し！」

道德は猶ほ下らず。雲龍門を出、王公百僚は拜辭し、高隆之は泣^{なみだ}を灑^{そそ}ぐ。遂に北城に入り、司馬子如の南宅（本宅は太原にあり、鄴は南宅）に居り、太尉の彭城王の韶等を遣わして璽綬を奉じ、位を齊に禪る。（東魏は16年にして滅びる）

北齊 **〔高洋は北齊を立てる〕** 戊午（54-45+1=10日）、齊王は南郊に於いて皇帝に即位し、大赦し、改元して天保とす。魏の敬宗より以來、百官は祿を絶ち、是に至りて始めて復た之を給す。己未（55-45+1=11日）、東魏主を封じて中山王と為し、待つに臣之禮を以てす。齊の獻武王（高歡）を追尊して獻武皇帝と為し、廟號を太祖とし、後に改めて高祖と為す。文襄王（高澄）を文襄皇帝と為し、廟號を世宗とす。辛酉（57-45+1=13日）、王太后の婁氏を尊びて皇太后と為す。乙丑（1+60-45+1=17日）、魏朝の封爵を降すこと差有り、其の力を霸朝に宣べ（高歡が挙兵して以後諸勲貴は皆霸朝に宣べる者）及び西、南の化に投じる者（關西及び江南より來投する者）は、降限に在らず。

■ **〔吳の蕭寧は侯子榮に破られる〕** 文成侯の寧は兵を吳に起こし、衆萬人有り、己巳（5+60-45+1=21日）、吳郡（吳県を帯びる、寧は蓋し吳県の界に起こし、進みて吳郡の城を攻める）に進攻す。行吳郡事の侯子榮は逆え撃ち、之を殺す。寧は、范之弟也。子榮は因りて兵を縦ちて大いに郡境を掠す。

■ **〔江南の三吳の荒廃〕** 晉氏の江を度るより、三吳は最も富庶と為る、貢賦商旅は、皆な其の地に出る。侯景之亂に及び、金帛を掠めて既に盡き、乃ち人を掠し而して之を食し、或は北境に賣り、遺民は殆んど盡く矣。

■ **〔荊州益州は完実す〕** 是の時、唯だ荊、益の所部は尚ほ完實にして、太尉、益州刺史の武陵王の紀は征、鎮に移告し、世子の圓照をして兵三萬を帥いて湘東王の節度を受け使む。圓照の軍は巴水（巴郡巴県に巴水有り、水折れて三廻し、巴の字の如し、四川省東川道巴県、現・重慶市巴南区）に至り、繹は授けるに信州刺史を以てし、白帝に屯せ令め、未だ東下を許さず。

■ 六月、辛巳（17-15+1=3日）、南郡王の大連を以て揚州の事を行わしむ。

■ 江夏王の大款、山陽王の大戚、宜都王の大封は信安の間道より江陵に奔る。

北齊 **〔北齊の皇室・功臣〕** 齊主は宗室の高岳等十人（高隆之・高暉彦・高思宗・高長弼・高普・高歡・高孝緒）を封じ、功臣の庫狄乾等七人（斛律金・賀拔仁・勸軌・可朱渾道元・彭樂・潘相樂）は皆な王と為る。癸未（19-15+1=5日）、弟の浚を封じて永安王と為し、淹を平陽王と為し、洸を彭城王と為し、演を常山王と為し、渙を上黨王と為し、洸を襄城王と為し、湛を長廣王と為し、潛を任城王と為し、湜を高陽王と為し、濟を博陵王と為し、凝を新平王と為し、潤を馮翊王と為し、（9-249p）洽を漢陽王と為す。

■ **〔侯瑱は莊鐵を謀殺〕** 鄱陽王の范は既に卒し、侯瑱は往きて莊鐵に依り、鐵は之を忌む。瑱は自ら安んぜず、丙戌（22-15+1=8日）、詐りて鐵を引きて事を謀り、因りて之を殺し、自ら豫章に據る。

■ 尋陽王の大心は徐嗣徽を遣わして夜湓城を襲い、安南侯の恬、裴之橫等は撃ちて之を走らす。

北齊 **〔高洋は漢人を皇后とする〕** 齊主は趙郡の李希宗之女を娶りて、子殷及び紹徳を生む。又た段韶之妹を納れる。將に中宮を建てんとするに及び、高隆之、高德政は勳貴之援を結ばんと欲し、乃ち言わく、「漢の婦人は天下の母と為す可からず、宜しく更に美配を擇ぶべし。」

帝は従わず。丁亥（23-15+1=9日）、李氏を立てて皇后と為し、段氏を以て昭儀と為し、子殷を皇太子と為す。庚寅（25-15+1=11日）、庫狄干を以て太宰と為し、彭樂を太尉と為し、潘相樂を司徒と為し、司馬子如を司空と為す。辛卯（27-15+1=13日）、清河王の岳を以て司州牧と為す。

■ **〔羊鴉仁は逃げて盜賊に殺される〕** 侯景は羊鴉仁を以て五兵尚書と為す。庚子（36-15+1=22日）、鴉仁は出でて江西に奔り、將に江陵に赴かんと欲し、東莞（南兗州に東莞郡あり、江西ではない。東莞は東關の誤りか）に至り、盜は其の金を懷にするを疑い、邀えて之を殺す。

● **〔西魏は蕭榮權を梁王に任命〕** 魏人は岳陽王の察（字は理孫、武帝の孫、昭明太子の第三子）をして哀を發して位を嗣が令めんと欲し、察は辭し、受けず。丞相の泰は榮權をして察に冊命して梁王と為さしめ、始めて台を建て、百官を置く。

■ **陳霸先は崎頭（曲岸を崎という。九域志に南安郡は大庾縣に治す、古の南野なり、南康の古城有り、又峽頭鎮有り、江西省贛南道大庾縣、現・贛州市大余縣）の古城を修めて、徙りて之に居る。（9-250p）**

■ **〔羅州の馮氏は燕出身、洗氏女と政治〕** 初め、燕の昭成帝は高麗に奔り（123 卷宋文帝元嘉 13 年にあり）、其の族人の馮業をして三百人を以て海に浮かびて宋に奔らしめ、因りて新會（晉の恭帝元熙六年に南海郡を分けて新會郡を置く、廣東省粵海道新會縣、現・江門市新會区）に留まる。業より孫の融に至るまで、世々羅州（石龍郡石龍縣に治す。廣東省高雷道化縣、現・茂名市化州縣）刺史と為り、融の子の寶は高涼（漢の合浦郡の縣、獻帝建安 22 年に呉は分けて高涼郡を置く。廣東省高雷道陽江縣、現・陽江市江城区）太守と為る。高涼の洗氏は、世々蠻酋と為り、部落は十餘萬家、女有り、籌略多く、善く兵を用い、諸洞は皆な其の信義に服す。融は聘して以て寶の婦と為す。融は累世方伯と為ると雖も、其の土人に非ず、號令は行われず。洗氏は本宗を約束し、民の禮に従わしめ、毎に寶と辭訟を參決し、首領の犯す有れば、親戚と雖も縱捨する所無し、是に由りて馮氏は始めて其の政を行うを得る。

■ **〔洗氏は李遷仕を破り、陳霸先の能力を買う〕** 高州（高涼に治す）刺史の李遷仕は大旱口に據り、遣使して寶を召し、寶は往かんと欲し、洗氏は之を止めて曰く、

「刺史は故無くして應に太守を召すべからず、必ず君を詐りて共に反せんと欲する耳。」

寶は曰く、

「何を以て之を知るや？」

洗氏は曰く、

「刺史は召され台を援け、乃ち疾有りと稱し、兵を鑄、衆を聚め而る後に君を召す。此れ必ず君を質として以て君之兵を發せんと欲する也、願わくは且く往く無くして以て其の變を觀よ。」

數日にして、遷仕は果たして反し、主帥の杜平虜を遣わして兵を將いて瀨石（贛石、贛江の十八灘、江西省贛南道にあり、現・贛州市石城縣贛江源鎮）に入り、魚梁（贛石の近く）に城きずかしめ以て南康（贛南道南康縣、現・贛州市南康区）に逼る。陳霸先は周文育をして之を撃たしめ、洗氏は寶に謂って曰く、

「平虜は、驍將也、今贛石に入り官軍と相ひ拒み、勢いは未だ還るを得ず。遷仕は州に在り、能く為す無き也。君が若し自ら往けば、必ず戰鬥有り、宜しく使いを遣わして辭を卑くし禮を厚くして之を告げて曰く、『身は未だ敢えて出でず、婦を遣わして參ぜしめんと欲す』と、彼は之を聞き、必ず喜び而して備え

無し。我は千餘人を將い、歩みて雜物を擔い、賤（蠻夷は財を以て罪を贖う）を輸おくると唱言し、柵下に至るを得れば、之を破るは必ずなり矣。」

實は之に従う。遷仕は果たして備えを設けず、洗氏は襲撃し、大いに之を破り、遷仕は走りて寧都（呉は漢の贛県を分けて陽都県を立つ。晋武の太康元年に更めて寧都と名付ける。江西省贛南道贛県、現・贛州市贛県区）を保つ。文育も亦た撃ちて平虜を走らせ、其の城に據る。洗氏は霸先と瀨石に會い、還り、實に謂って曰く、

「陳都督は非常の人也、甚だ衆心を得る、必ず能く賊を平らげん、君は宜しく厚く之を資すべし。」

■湘東王の繹は霸先を以て豫州刺史と為し、豫章内史を領せしむ。

■辛丑（37-15+1=23日）、裴之横は稽亭を攻める、徐嗣徽は撃ちて之を走らす。

北齊秋，七月，辛亥（47-45+1=3日），齊は世宗の妃の元氏（東魏靜帝の女）を立てて文襄皇后と為し、宮を靜徳と曰う。又た世宗の子の孝琬を封じて河間王と為し、孝瑜を河南王と為す。乙卯（51-45+1=7日），尚書令の封隆之を以て尚書の事を録せしめ、（9-251p）尚書左僕射の平陽王の淹を尚書令と為す。

●辛酉（57-45+1=13日），梁王の察（統は督）は魏に入朝す。（後554年に西梁を立てる）

北齊■[蕭嗣は任約に殺され、蕭大心は任約に降る] 初め、東魏は儀同武威の牒雲洛（牒云に作るべし、複姓）等を遣わして鄱陽の世子の嗣を迎え、皖城（皖県の古城、安徽省安慶道潛山県の北、懷寧・宿松・望江・太湖の県は皆漢の皖県、現・安慶市潛山市）に鎮せしむ。嗣は未だ行くに及ばざるに、任約の軍は至り、洛等は引いて去る。嗣は遂に援を失い、出でて戦い、敗死す。約は遂に地を略して湓城に至り、尋陽王の大心は司馬韋質を遣わして出でて戦い而して敗り、帳下は猶ほ戰士千餘人有り、鹹な大心に勸む、

「走りて建州（梁は河南省汝陽道固始県に置く、現・信陽市固始県）を保て」

と、大心は用いる能わず、戊辰（4+60-45+1=20日），江州を以て約に降る。是より先、大心は前太子の洗馬の韋臧をして建昌に鎮せしめ、甲士五千有り、尋陽の守られざるを聞き、衆を帥いて江陵に奔らんと欲し、未だ發せず、麾下の殺す所と為る。臧は、粲（太清三年に青塘の戦いに死す）之子也。

■[於慶は豫章に到達] 於慶は地を略して豫章に至り、侯瑱は（統には力+）屈し、之に降り、慶は瑱を建康に送る。景は瑱の同姓（姓×）なるを以て、之を待つこと甚だ厚く、其の妻子及び弟を留めて質と為し、瑱を遣わし慶に従（統による）いて蠡南（彭蠡湖以南）の諸郡にとなえしめ、瑱を以て湘州刺史と為す。

■[黄法くは陳霸先と呼応] 初め、巴山（五代志に臨川郡崇仁県に梁が置く郡、江西省豫章道崇仁県、現・撫州市崇仁県）人の黄法く（十目目大毛の文字）は、勇力有り、侯景之亂に、徒衆を合わせて郷里を保つ。太守の賀詡は江州に下り、法くに命じて郡事を監せしむ。法くは新淦に屯し、於慶は豫章より兵を分けて新淦（江西省廬陵道新淦県、現・吉安市新幹県）を襲い、法くは之を敗る。陳霸先は周文育をして軍を進めて慶を撃たしめ、法くは兵を引いて之に會す。

■[蔣思安は任約に逆襲される] 邵陵王の綸は任約が將に至らんとするを聞き、司馬の蔣思安をして精兵五千を將いて之を襲わしめ、約の衆は潰える。思安は備えを設けず、約は兵を収めて之を襲い、思安は敗走す。

■湘東王の繹は宜都（湖北省荊南道宜都県、現・宜昌市宜都市）を改めて宜州と為し、王琳を以て刺史と為す。

■是の月、南郡王の大連を以て江州刺史と為す。

●魏の丞相の泰は齊主が帝を稱するを以て、諸軍を帥いて之を討つ。齊王は郭を以て隴右に鎮せしめ、秦州刺史の宇文導を征して大將軍、都督二十三州諸軍事と為し、咸陽に屯し、關中に鎮せしむ。

■益州の沙門の**孫天英**は徒數千人を帥いて夜州城を攻め、武陵王の**紀**は與に戦い、之を斬る。

■邵陵王の**綸**は大いに鎧仗を修め、將に**侯景**を討たんとす。湘東王の**繹**は之を惡む(綸の兵力強化を惡む)、八月、甲午(30-14+1=17日)、左衛將軍の**王僧辯**、信州刺史の**鮑泉**等を遣わして舟師一萬を帥いて東に江、郢に趣き、**任約**を拒ぐと聲言し、且つ雲う、

「邵陵王を迎えて江陵に還り、授けるに湘州を以てせん。」

北齊 **[齊主は梟殺を採用し、宋軌が中止を進言]** **齊主**は初めて立ち、勵精して治を為す。**趙道德**は事を以て**黎陽**(孝昌中に汲郡を分けて**黎陽郡**を置き、司州に屬し、**黎陽城**に治す。河南省河北道**濬県**・**浚県**、現・鶴壁市**浚県**の東)の太守の**清河**の**房超**に屬し、(9-252p) **超**は書を發せず、其の使いを**梟殺**(大きな杖で打ち殺す)す。**齊主**は之を善しとす、守宰に命じて各々梟を設け以て屬請之使いを誅せしむ。之久しく、都官中郎(當に郎中とすべし。五代志に、都官郎中は畿内の非違得失の事を掌る、北齊の制なり)の**宋軌**は奏して曰く、

「若し使いの請球を受けるすら、猶ほ大戮を致せば、身は枉法を為せば、何を以てか罪を加えん！」

乃ち之を罷む。

北齊 **[齊の律の議論]** 司都功曹(司州の功曹、鄴に都し、鄴を司州治所となす)の**張老**は上書して齊の律を定めるを請い、右僕射の**薛暉**等に詔して魏の《麟趾格》(158 卷武帝大同七年にあり)を取り、更に之の損益を討論せしむ。

北齊 **[齊の軍事教練]** **齊主**は六坊(魏齊の官に六軍宿衛の士は六坊に分ける)之人を簡練し、一人毎に必ず百人に當たり、其の陳に必ず死するを任(保任)じ、然る後に之を取り、之を「百保鮮卑」(高氏は鮮卑により業を創り、當時健闘と号す、故に衛士は皆鮮卑を用いる)と謂う。又た華人之勇力絶倫なる者を簡び、之を「勇士」と謂い、以て邊要(辺境の要害)に備える。

■ **[九等之戸]** 始めて九等之戸(戸を上中下三等に分け、さらに等毎に上中下に分ける)を立て、富者は其の錢を税し、貧者は其の力を役す。

●九月、丁巳(53-44+1=10)、魏軍は長安を發す。(北齊討伐軍)

■ **[邵陵王綸は王僧辯との対決を避ける]** **王僧辯**の軍は鸚鵡洲(湖北省江漢道武昌縣の西南洲内、現・武漢市江夏区)に至り、郢州の司馬の**劉龍虎**等は潛に質を**僧辯**に送り、邵陵王の**綸**は之を聞き、其の子の威正侯の**碩**を遣わして兵を將いて之を撃たしむ。**龍虎**は敗れて、**僧辯**に奔る。**綸**は書を以て**僧辯**を責めて曰く、

「將軍は前年に人之侄(河東王察)を殺し、今歲は人之兄(邵陵王綸)を伐ち、此を以て榮を求めるは、恐らくは天下は許さず！」

僧辯は書を湘東王の**繹**に送り、**繹**は命じて軍を進めしむ。辛酉(57-44+1=14日)、**綸**は其の麾下を西園(郢城の西側にある)に集め、涕泣して言つて曰く、

「我は本は他(他意)無し、志は賊を滅すに在り、湘東は常に之と帝を争うと謂う、遂に爾く伐たれる。今日守らんと欲すれば則ち交々糧儲を絶ち、戦わんと欲すれば則ち笑いを千載に取らん、事無く縛を受ける可からず、當に下流に於いて之を避けん。」

麾下の壯士は争いて出で戦うを請い、**綸**は從わず、**碩**と倉門(郢城の北門、揚子江沿いの險要)より舟に登りて北に出る。**僧辯**は入りて郢州に據る。**繹**は南平王の**恪**を以て尚書令、開府儀同三司と為し、世子の**方諸**を郢州刺史と為し、**王僧辯**を領軍將軍と為す。

■ **[邵陵王綸は北齊に亡命]** **綸**は鎮東將軍の**裴之高**に道に遇い、**之高**の子の**畿**は其の軍器を掠め、**綸**は左右と輕舟にして武昌の潤飲寺に奔り、僧の**法馨**は**綸**を巖穴之下に匿す。**綸**の長史の**韋質**、司馬の**姜律**等は**綸**の尚ほ存するを聞き、馳せて往き之を迎え、七柵の流民(北江州に保據す)に説き以て糧仗を求める。**綸**は

出でて巴水に營す。流民八九千人は之に付き、稍く散卒を収め、齊昌（梁の武帝は北江州を置き、鹿城關に治す。義陽・齊昌・新昌・梁安・齊興・光城郡を領す。齊昌郡は湖北省江漢道黃丘縣、現・黃岡市）に屯し、遣使して降（続は和）を齊に請い、（9-253p）齊は綸を以て梁王と為す。

■湘東王の繹は改めて皇子の大款を封じて臨川王と為し、大成を桂陽王と為し、大封を汝南王と為す。

●癸亥（59-44+1=16日）、魏軍は潼關に至る。

北齊庚午（6+60-44+1=23日）、齊主は晉陽に如き、太子の殷に命じて涼風堂（鄴宮の玄都苑にあり）に居り監國せしむ。

■**張彪は会稽に挙兵** 南郡王（大連、会稽に鎮す）の中兵參軍の張彪等は兵を若邪山（浙江省会稽道紹興縣の南、現・紹興市柯橋區）に起こし、攻めて浙東の諸縣を破り、衆數萬有り。吳郡の人の陸令公等は太守の南海王の大臨を説いて往きて之に依らしむ。大臨は曰く、

「彪が若し功を成せば、我が力に資らずとす。如し其の撓敗すれば、我を以て自ら解かん（將に罪を大臨に帰して以て自ら侯景に解くかんとするをいう）。往く可からざる也。」

■**任約は武昌に據る、綸は西魏に亡命** 任約（この時は侯景側）は進みて西陽（湖北省江漢道黃丘縣の東、現・黃石市黃石港區）、武昌を寇す。初め、寧州刺史の彭城の徐文盛は兵數萬人を募りて侯景を討ち、湘東王の繹は以て秦州（五代志に、江都郡六合縣に旧秦郡を置く。後に齊は秦州を置くと。梁は既にこれを置くか）刺史と為し、兵を將いて東下せしめ、約と武昌に遇う。繹は廬陵王の應を以て江州刺史と為し、文盛を以て長史と為し府州事を行わしめ、諸將を督して之を拒がしむ。應は、續（武帝の太清元年に卒す）之子也。邵陵王の綸は齊兵を引いて未だ至らず、移りて馬柵に營し、西陽を距てること八十里、任約は之を聞き、儀同の叱羅子通等を遣わして鐵騎二百を將いて之を襲わしめ、綸は備えを為さず、馬を策^{むちう}ちて亡げ走る。時に湘東王の繹も亦た齊と連和し、故に齊人は觀望し、綸を助けず。定州刺史の田祖龍は綸を迎え、綸は祖龍が繹の厚くする所と為るを以て、執る所と為るを懼れ、復た齊昌に歸る。行きて汝南（郡、河南省汝陽道上蔡縣、現・駐馬店市上蔡縣）に至り、魏の署する所の汝南城主の李素は、綸之故吏也、開城して之を納れ、任約は遂に西陽、武昌に據る。

■**蕭繹は裴之高を許す** 裴之高は子弟部曲千餘人を帥いて夏首に至り、湘東王の繹は之を召し、以て新興（郡、江陵縣の界に置く）、永寧（永守×、郡名、襄陽道南漳縣、現・襄陽市南漳縣）の二郡太守と為す。又た南平王の恪を以て武州刺史と為し、武陵（湖南省武陵道常德縣、現・常德市武陵區）に鎮せしむ。

■初め、邵陵王の綸は衡陽王の獻を以て齊州刺史と為し、齊昌に鎮せしむ。任約は撃ちて之を擒とし、建康に送り、之を殺す。獻は、暢之孫也。

■乙亥（11+60-44+1=28日）、侯景の位を相國に進め、二十郡に封じ、漢王と為し、殊禮を加える。

●岳陽王の察は襄陽（魏に朝してより還る。前には既に梁王と称し、今また察の旧爵の岳陽王を書するは、義例を以てこれを言え、改正すべきか）に還る。

■●**蕭紀は楊法琛を責め、楊法琛は魏に附く** 黎州民は刺史の張賁を攻め、賁は城を棄てて走る。州民は氐酋の北益州（魏は武興を以て東益州と為す。氐王楊氏はこれに居る。梁は蓋し以て北益州と為す。下卷を案じるに、楊法琛は平興に治す。梁は北益州を平興に置くなるべし）刺史の楊法琛を引いて黎州に據り、王、賈二姓に命じて武陵王の紀（武帝八男）に詣りて法琛を請いて刺史と為さしむ。紀は深く之を責め、法琛の質子の崇頤、崇虎を囚える。冬、十月、丁丑（13-13+1=1日）朔、法琛は遣使して魏に附く。（9-254p）

北齊己卯（15-13+1=3日）、齊主は晉陽宮（齊の獻武王の置く所）に至る。廣武王の長弼（高長弼）は并州刺史の段韶と協せず、齊主は將に晉陽に如かんとし、長弼は帝に言つて曰く、

「韶は強兵を擁して彼に在り、恐らくは人の意を知（続は如）らず、豈に徑に往きて之に投ず可けんや！」

帝は聴かず。既に至り、**長弼**の語を以て之に告げて、曰く、

「君の忠誠の如きも、人は猶ほ讒有り、況んや其の餘を乎！」

長弼は、**永樂**之弟也。乙酉（21-13+1=9日）、特進の**元韶**を以て尚書左僕射と為し、**段韶**を右僕射と為す。

■**侯景は宇宙大將軍を自称** 乙未（31-13+1=19日）、**侯景**は自ら宇宙大將軍、都督六合諸軍事を加え、詔文を以て呈上す。上は驚いて曰く、

「將軍は乃ち宇宙之號有る乎！」

皇子の**大鈞**を立てて西陽王と為し、**大威**を武寧王と為し、**大球**を建安王と為し、**大昕**を義安（寧蠻府の領する所に義安郡あり）王と為し、**大摯**を綏建王（宋の文帝元嘉13年に綏建郡を漢の南海郡四會県に立てる、廣東省粵海道四會県、現・肇慶市四会市）と為し、**大圜**を樂梁（郡、廣西省桂林道富川県、現・賀州市富川ヤオ族自治県）王と為す。

北齊■**辛術は陽平を囲む** 齊の東徐州刺史の行台の**辛術**は下邳に鎮す。十一月、**侯景**は租を征（統は徴）し建康に入り、**術**は衆を帥いて淮を度りて之を斷ち、其の穀百萬石を焼き、遂に陽平を圍み、**景**の行台の**郭元建**は兵を引いて之を救う。壬戌（58-43+1=16日）、**術**は三千餘家を略し、下邳に還る。

■**成都の蕭紀を蕭繹は止める** 武陵王の**紀**は諸軍を帥いて成都を發し、湘東王の**繹**は遣使して書を以て之を止めて曰く、

「蜀人は勇悍にして、動き易く安んじ難し、弟は之を鎮す可し、吾は自ら當に賊を滅ぼすべし。」

又た別紙に云う、

「地は**孫**、**劉**に擬し（孫權劉備がそれぞれ一国を為す事）、各々境界を安んず。情は魯、衛よりも深く（兄弟なるを言う）、書信は恆に通じん。」

■甲子（60-43+1=18日）、南平王の**恪**は文武を帥いて箋を拜して湘東王の**繹**を推して相國と為し、百揆を總べしむ。**繹**は許さず。

●北齊**北齊の軍容盛んで宇文泰は歎じる** 魏の丞相の**泰**は弘農より橋を為り、河を濟り、建州に至る。丙寅（2+60-43+1=20日）、**齊主**は自ら將して出でて（晉陽の）東城に頓す。**泰**は其の軍容の嚴盛なるを聞き、歎じて曰く、

「高歡は死せず矣！」

會々久しく雨ふり、秋より冬に及び、魏軍の畜産は多く死し、乃ち蒲阪より還る。是に於いて河南は洛陽より、河北は平陽より已東は、皆な齊に入る。

■丁卯（3+60-43+1=21日）、**徐文盛**は貝磯に軍し、**任約**は水軍を帥いて逆え戦い、**文盛**は大いに之を破り、**叱羅子通**、**趙威方**を斬り、仍って進みて大舉口（舉水の江に注ぐ所。湖北省江漢道麻城縣・現・黃岡市麻城市）に軍す。**侯景**は**宋子仙**等を遣わして兵二萬を將いて**約**を助けしめ、**約**が西陽を守り、久しく進む能わざるを以て、自ら出でて晉熙に屯す。

■**會理の叛乱失敗** 南康王の**會理**は建康の空虛なるを以て、太子の左衛將軍の**柳敬禮**、西郷侯の**勸**、東郷侯の**勉**と兵を起こして**王偉**を誅さんと謀る。安樂侯の**乂理**は出でて長蘆（鎮の名、江蘇省金陵道六合縣、現・南京市六合区）に奔り、衆を集めて千餘人を得る。建安侯の**賁**、中宿（中宿侯なり、縣の名）の世子の**子邕**は其の謀を知り、以て**偉**に告げる。**偉**は**會理**、**敬禮**、**勸**、**勉**及び**會理**の弟の**祁陽**（縣の名）侯の**通理**を収め、俱に之を殺す。**乂理**は左右の殺す所と為る。錢塘の**褚晃**は、**會理**の故舊なるを以て、捶掠すること千計なれども、終に異言無し。**會理**は壁を隔てて（9-255p）之に謂って曰く、

「**褚郎**、卿は豈に我が為に此を致すにあらずや？卿は死を忍びて我を明らかにすと雖も、我が心は實に賊を殺さんと欲す！」

冕は竟に服さず、景は乃ち之を宥す。勸は、曷之子。賁は、正徳之弟の子。子邕は、愴之孫也。

■**〔武林侯の謫の誅殺〕**帝は即位より以來、景は防衛すること甚だ嚴にして、外人は進見することを得る莫し、唯だ武林侯の謫及び僕射の王克、舍人の殷不害は、並びて文弱なるを以て臥内に出入するを得、帝は之と講論し而して已む。會理の死するに及び、克、不害は禍いを懼れ、稍自ら疏んず。咨は獨り帝を離れず、朝請すること絶える無し。景は之を惡み、其の仇人の刁戍をして咨を廣莫門外に刺殺せ使む。

■帝之即位する也、景は帝と重雲殿（華林園にあり）に登り、佛を禮し誓いを為して云わく、

「今より君臣は兩つながら猜貳無し、臣は固より陛下に負かず、陛下も亦た臣に負くを得ず！」

會理の謀の洩れるに及び、景は帝が之を知ると疑い、故に咨を殺す。帝は自ら久しからずを知り、居る所の殿を指さして殷不害に謂って曰く、

「龐涓（戦国時代の魏の武将）は當に此の下に死すべし。」（孫臏つまり孫子の言葉）

■**〔侯景は楊白華を許す〕**景は自ら衆を帥いて楊白華（大眼の子、魏の胡太后はこれを私幸す。白華は禍を恐れて梁に降る）を宣城に討ち、白華は力屈し而して降り、景は其の北人なるを以て、之を全くし、以て左民尚書と為し、其の兄の子の彬を誅して以て來亮之怨み（楊白華が來亮を殺す事、前卷太清三年にあり）に報いる。

■十二月、丙子（12-12+1=1日）朔、景は建安侯の賁を封じて竟陵王と為し（會理を告げる功を賞す）、中宿の世子の子邕を隨王と為し、仍って姓の侯氏を賜う。

北齊辛丑（37-12+1=26日）、齊主は（晉陽より）鄴に還る。

北齊●邵陵王の綸は汝南に在り、城池を修め、士卒を集め、將に安陸を圖らんとす。魏の安州（安陸郡に梁は南司州を置く、西魏は改めて安州という。湖北省江漢道安陸県、現・孝感市安陸市）刺史の馬祐は以て丞相の泰に告げ、泰は楊忠を遣わして萬人を將いて安陸を救わしむ。

■武陵王の紀は潼州刺史の楊乾運、南梁州刺史の譙淹を遣わして兵二萬を合わせて楊法琛を討たしめ、法琛は兵を發して劍閣に據り以て之を拒む。

■侯景は建康に還る。

●**〔魏の八柱國と富国強兵〕**初め、魏の敬宗は爾朱榮を以て柱國大將軍と為し、位は丞相の上に在り。榮は敗れ、此の官は遂に廢す。大統三年、文帝は復た丞相の泰を以て之と為す。其の後功佐命に參し、望實俱に重き者は、亦た此の官に居り、凡そ八人、曰わく、安定公の宇文泰、廣陵王の欣、趙郡公の李弼、隴西公の李虎、河内公の獨孤信、南陽公の趙貴、常山公の於謹、彭城公侯の莫陳崇、之を八柱國と謂う。泰は始めて民之才力ある者を籍して府兵と為し、身の租庸調は、一切之を蠲^{のぞ}き、農隙を以て戰陳を講閱し、馬畜糧備は、六家之を供す。合わせて百府と為し、府毎に一郎將之を主^{つかさど}り、分ちて二十四軍に屬す。泰は任は百揆を總べ、中外の諸軍を督す。欣は宗室の宿望なるを以て、（9-256p）禁闥に從容とし而して已む。餘の六人は各々二大將軍を督し、凡そ十二大將軍（広平王元賛・淮安王元育・齊王元廓（後の恭帝）・章武郡開国公宇文導・平原郡開国公侯莫陳順・高陽郡開国公達奚武・陽平郡公李遠・范陽郡開国公豆盧寧・化政郡開国公宇文貴・博陵郡開国公賀蘭祥・陳留郡開国公楊忠・武威郡開国公王雄）あり、大將軍毎に各々開府二人を統べ、開府は各々一軍を領す。是の後功臣の位は柱國大將軍、開府儀同三司、儀同三司に至る者は甚だ衆く、率ね散官と為り、統御する所無し、繼ぎて其の事を掌る者有ると雖も、聞望は皆な諸公之下に出ずと雲う。

北齊齊主は散騎侍郎の宋景業に命じて《天保歷》を造らしめ、之を行う。

令和5年4月12日 翻訳開始 8304文字

令和5年4月20日 翻訳終了 18319文字